

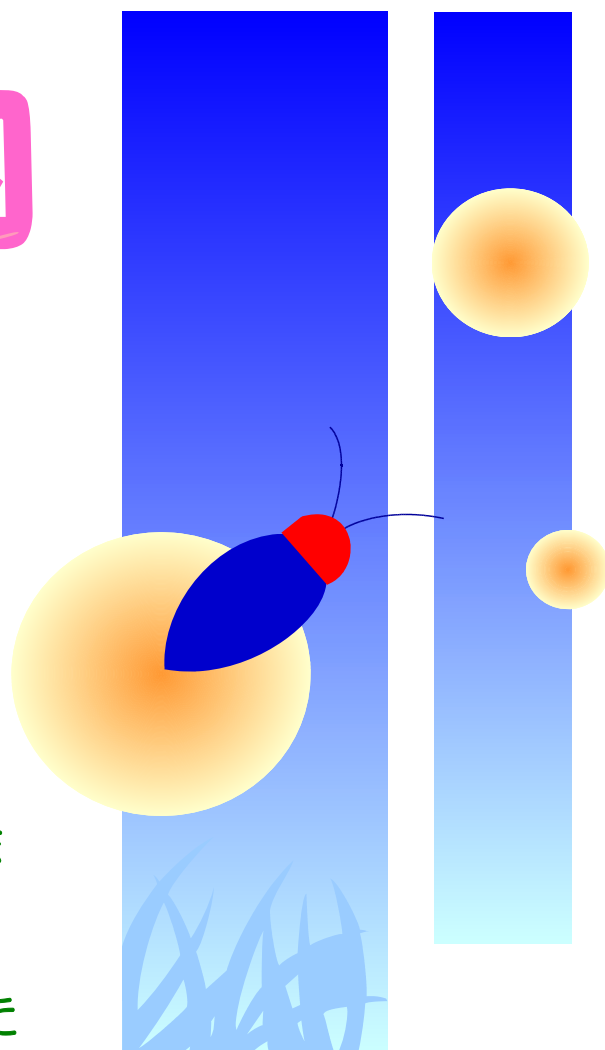
お出で下さい!! 日本のおてっぺん
稚内・豊富へ

第51回全国ホテル研究会 稚内・豊富大会

ご案内

平成30年7月20日(金)~22日(日)

- ◆主催◆全国ホテル研究会
- ◆主管◆第51回全国ホテル研究会
稚内・豊富大会実行委員会
- ◆会場◆稚内総合文化センター
豊富町定住支援センター
ふらっと★きた



◆平成30年7月20日（金）

15:00	参加受付開始	稚内総合文化センター
18:00	観察会集合	//
18:50	夕食	豊富町定住支援センター ふらっと★きた
19:30	観察会	豊富町自然公園

◆平成30年7月21日（土）

8:30	受付	稚内総合文化センター
9:00	開会式	
9:30	研究発表（地元）	
	パネルディスカッション	
12:00	昼食	
13:00	歓迎アトラクション	
14:00	研究発表（全国）	
16:30	研究会総会	
17:30	全日程終了	
18:00	交流懇親会	

◆平成30年7月22日（日）

エクスカージョン 希望者

※上記の日程は、予定です。今後、変更になる場合があります。ご了解ください。

稚内市って、豊富町って どんどこ!!

▲稚内市▼

稚内市は北緯45度31分と日本の実効支配地としてはもっとも北に位置する街です。宗谷海峡を隔てロシア・サハリン州と接する国境の街でもあります。国立公園の利尻礼文への玄関口であり、近年、サハリンへのフェリーが夏の間だけ（冬は流氷が浮遊するので欠航）運航しています。ひと時は年間8万人のロシア人が上陸し、異国情緒漂う雰囲気がありました。

かつて1700年代後半から1800年初頭にロシアは樺太や利尻に開港を求めて来航し、各地で乱暴狼藉を働いたことから、徳川幕府は東北の各藩に命じ、宗谷を始め、シャリ、択捉までの防備にあたらせました。その間、厳しい寒さに耐えきれず多くの藩士たちが故郷を遠く離れ斃れたというつらい歴史も背負っています。

一方、1808年、松田伝十郎、間宮林蔵が命により樺太を探検、樺太が島であることを確認しました。

基幹産業は漁業、酪農業です。ただ、排他的経済水域の設定後、漁獲が減少、近海での漁業は厳しさを増し、沿岸での栽培型漁業（ホタテなど）に取組み、いまやホタテの一大産地として、米国、欧州にも輸出しています。

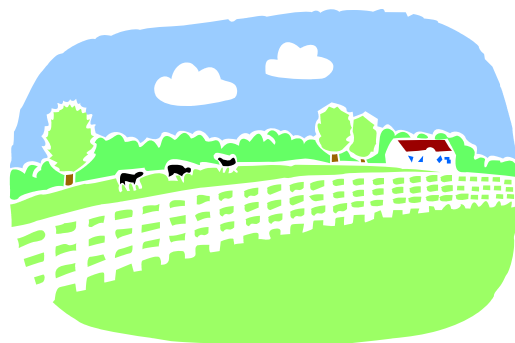
気候は厳しく、8月の平均気温が19℃前後と冷涼な環境ですが、低地でも咲く高山植物の魅力や利尻礼文の景観を求めて観光客が訪れます。しかし、常に強い風が吹き付けることから、風力発電にいち早く着目し、現在74基の風車が稼働しています。その発電量はおよそ本市の需要の90%に達します。手つかずの環境も豊かであることから、「人が行き交う、環境都市わっかない」をキャッチフレーズにまちづくりを進めています。

▲豊富町▼

稚内から南へおよそ40キロ、牛が静かに草を食み、なだらかな草地が広がる街が豊富町です。産業の中心はやはり酪農で、乳牛飼養戸数は146戸、飼養頭数は1万4千122頭。人口は3千999人ですから、牛の方がはるかに多い酪農の街です。生乳の出荷量は一部稚内市の農家も含まれますが、10万5千トン、宗谷管内では最も多い生産量を誇ります。

豊富町には、牛乳加工工場があり、サロベツ牛乳、又は豊富牛乳として主に北海道各地で、コンビニエンスストア・セイコーマートのPB牛乳として販売され、その出荷額は酪農粗生産に匹敵する規模になっています。現在は、本州へも出荷されています。

豊富町の誇りはもう一つ、温泉です。石油の採掘時に湧き出したという油分を含んで、少々油臭い温泉です。しかし、今、アトピーや乾癬などの、皮膚病に効果があるということで、全国各地の皮膚科のお医者さんから注目され、津々浦々からたくさんの人々が湯治にやってきます。結局移住を選んだ人々も増えてきて、新しい活力も生まれつつあります。



とびっくす

◆稚内には「みなと南極祭り」という少々奇妙な名前の祭りがああります。8月の第一土曜、日曜に行われ、もう半世紀以上も続いています。最も南極から遠い地であり

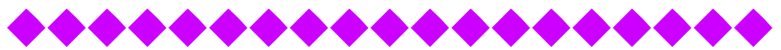
ながら何故南極か？それには深いわけがあります。

◆1956年（昭和31年）日本は永田武さんを隊長に南極地域観測隊を編成、初めて南極に向かいました。その際、物資の輸送などに力を発揮して貰おうということで“犬”を連れて行くことになりました。かつて白瀬中尉隊でも使われた寒さに強い樺太犬が注目され、もっとも多く飼育されていた道北の飼い犬たちが選ばれました。それがタロ・ジロをはじめとする15頭の犬たちだったのです。

◆この犬たちは稚内市の裏山で厳しい訓練を受け、現在のようにしっかりした雪上車などがまだ装備されていない時代、物や人を運ぶ貴重な戦力として大活躍してくれたようです。しかし、第二次隊と交代の際、折悪しく大変な悪天候に見舞われ、当時の南極観測船「宗谷」は昭和基地に接岸できず、交代要員を基地に送り込むことが出来なくなりました。その結果、15頭の犬たちは基地に置き去りにされることとなります。極地では生きられないと誰もが思っていたが、1959年、第三次隊は元気に生きているタロ・ジロを発見しました。世界中に大きな感動を与えたのです。

◆そんな、稚内生まれの樺太犬たちを偲びこの祭りは続けられています。この犬たちの活躍は「南極物語」という映画やTVドラマにもなって、また、感動を呼び起こすことになりました。残念ながら、正統な樺太犬は絶えてしまい、もう樺太（サハリン）にも存在しないようです。

てっぺんへの道案内



◆**空路**◆ 東京（羽田） 6月以降一日2便 9月～5月一日1便
札幌（千歳） 通年2便

◆**列車**◆ 札幌 特急一日3便（2便は旭川乗り換え）

◆**バス**◆ 札幌 一日6便 夜行バスあり

◆**道路**◆ 札幌～旭川間 国道12号線 旭川～稚内間 国道40号線
札幌～深川 高速道央道、深川～留萌 高速専用道
留萌～稚内 国道275号線

